

会 議 録

会議の名称	第2回鴻巣市総合振興計画審議会
開催日	令和3年7月9日(金)
開催時間	午後 1時15分 開会 ・ 午後 2時50分 閉会
開催場所	鴻巣市役所 大会議室
会長	会長 酒巻 貞夫
出席者(委員)氏名 (出席者数)	酒巻 貞夫(会長) 田尻 要(副会長) 太田 恭子 齋藤 義夫 櫻井 利男 澤近 幸子 竹中 健司 吉田 全利 須田 愛子 竹下 和男 林 繁雄 小川 健 中村 憲子 渡辺 千鶴(14名)
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	山内 梨花 (1名)
事務局職員職氏名	市長政策室長 佐々木 紀演 市長政策室副室長 藤崎 秀也 市長政策室参事兼総合政策課長 武田 昌行 総合政策課副課長 高田 史 総合政策課主幹 黒巢 弘路 総合政策課主査 羽鳥 敦 総合政策課主任 大島 悠志
傍聴者の可否(傍聴者数)	可(0名)
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事 (1) 第6次鴻巣市総合振興計画基本構想一部改定(案)について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>

<p>会 議 の 内 容</p>	<p>第6次鴻巣市総合振興計画基本構想一部改定（案）について</p> <p>資料1について事務局から説明し、審議の結果、後期基本計画に向けて基本構想を見直すことについては妥当と判断された。</p> <p>各委員からの主な意見、質疑内容は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県では5か年計画の策定中であり、少子高齢化対策や感染症対策の強化、デジタル化やSDGsの取組など時代の変化に対応した計画案を示している。今回の基本構想の見直しについては、県の方向性とも合うものである。 ・子育てと教育を統合し、政策1に位置づける目的は。 <ul style="list-style-type: none"> ←子育てと教育の連携を強化するとともに、これまでの教育分野と併せて人づくりに視点を置いた政策とするもの。 <p>また、改定（案）のうち、次の3点を中心にグループ形式で議論を行い、提案内容について審議を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①子育てと教育に関する施策を統合し、政策1に展開することについて ②新型コロナウイルス感染症への対応 ③花・緑・コウノトリ（生物多様性）を政策4で一体的に展開することについて <p>グループ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てと教育を一体的な政策として位置づけることに異論はない。 ・結婚支援に関する取組を強化されたい。特に仕事をしてキャリアや収入がある女性にとって結婚に対する意識の変化は大きいと感じる。 ・結婚支援を成功させている自治体もある。また、子育て世帯の転入が大変多い自治体もある。鴻巣市も様々な取組を行っていることは理解できるがその効果をしっかり検証して効果的な取組につなげていくべき。 ・結婚や妊娠・出産には安定した雇用と収入、出産後の職場復帰など様々な課題がある。 ・子どもの居場所の確保が必要。民間と連携した取組も欠かせない。放課後児童クラブは学校を利用できれば親は安心である。中には放課後児童クラブの建物が古く、充実していると感じられない場所もある。 ・子どもの教育では学力だけでなく、心の成長も考えるべき。子どもの変化に気づき、適切に対応できる体制づくりが必要。 <p>また、子どもだけでなく親も成長する必要がある、子どもと親の両方が成長できる環境づくり、学校・家庭・地域の連携が必要だと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住地の選択理由としては、同じような子育て世帯が多い新しい住宅地であること、公園が近いこと、スーパーなどが近いこと、住宅や土地の価格が適当であることが大きいと感じる。 <p>グループ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症クラスの感染症はパンデミックであり、災害の一つとして安全・安心に位置づけた方が良い。また、安全・安心あつての子育て環境の充実であり、安全・安心は政策1のままでも良いと感じる。
----------------------------------	--

<p>会議の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民目線では、新型コロナウイルス感染症は医療分野との関わりを強く感じており、医療体制の充実が感染症対策の強化につながるため、政策 2 に位置付けることに異論はない。 ・施策 2-1「健康づくりの推進」という名称は、スポーツなどをイメージするため、この名称の施策に感染症対策の強化が入ることは違和感がある。 ・埼玉県では感染症対策の強化を「針路 1 災害・危機に強い埼玉の構築」に位置づけているが、鴻巣市においても政策 2 に加え、政策 3 の安全・安心の施策の一つとして、感染症対策を明記した方が良いと考える。 ・デジタル化の推進については、都市基盤の基本となるもので政策 6 に位置づけることは妥当である。 ・デジタル化の推進については、行政と利用者とのギャップが存在しているため、利用者目線で推進していくことを含めて検討して欲しい。 <p>グループ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花と緑を活かしたまちづくりにあたっては、市民の意識や協力が不可欠である。 ・花や緑がいないという人はいないと思うが、その花を供給している生産者への支援や産業振興とも連携して取り組んでいく必要がある。 ・都市宣言で「花と緑」を掲げているが、花の取組に比べると、緑の部分が弱いと感じる。 ・緑というと、高崎線沿線では北本市の緑が印象的であるが、鴻巣市の緑のイメージがあまり湧かない。荒川の斜面林など、自然の緑の保全についても努めるべきではないか。また、担い手を育てていくことも重要である。 ・「花と緑」の「緑」の中に「豊かな田園」も含まれると考えると、田んぼの保全も欠くことができないのではないか。 ・コウノトリを飼うこと自体が目的ではなく、飼育、卵を生んでもらい、ひなを育て、放鳥し、その放鳥した鳥が、環境が整った鴻巣に戻ってくること。そうした環境を整備する、生物多様性の部分に地域を上げて取り組んでいかなければならない。併せて、コウノトリというブランドを政策に活かしていかなければいけないと考える。 ・特に環境保全については長いスパンで取り組んでいく必要がある。 ・自然生態系を保全するために、冬水たんぼについてはもっと広く、全面的に取り組んでいくべきであると思う。 ・コウノトリの取組について、学校教育の中でしっかりと位置づけ、コウノトリをシンボルとした鴻巣市の豊かな自然環境や、環境保全の重要性について、小学生年代から認識を共有していく必要があるのではないか。
<p>配布資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回鴻巣市総合振興計画審議会次第 ・ 【資料 1】 第 6 次鴻巣市総合振興計画一部改定（案）について ・ 【資料 2】 第 6 次鴻巣市総合振興計画一部改定（案） ・ 埼玉県市町村のすがた2021